資料－１

第２回　野村ダム・鹿野川ダムの操作に関わる情報提供等に関する検証等の場
議事要旨

日　時：平成３０年９月１４日（木）１４：００～１６：１５
場　所：大洲市立風の博物館　２階「多目的ホール」

（より有効な情報提供や住民への周知のあり方）

〇国・県は、災害時に、市の避難指示等の発令の判断に結びつくための必要な情報提供を行っていく必要がある。

〇市は、本庁と支所間の情報伝達や市の意思決定をシステム的に出来るような体制づくりが重要である。

〇地域でおこりうる災害時のリスクやそれに至るシナリオを想定し、関係機関で共有しておくことが重要である。

〇住民の理解を促進するために、災害時の情報やダムの操作等に関して、広報や勉強会等において住民へ周知していくことが重要である。

〇情報提供の絞り込みは、情報を出す側が判断することではなく、情報を受ける側の意見を得て、考えていく必要がある。

（より効果的なダム操作について）

〇肱川の下流の河道整備をしっかりと実施し、整備状況の段階に応じた操作規則の検討が必要である。

〇ダムの治水容量を安定的に確保していくことが必要である。

〇今年度完成する鹿野川ダムの改造による容量確保を上手く利用し、流域全体で有効な操作規則を検討する必要がある。

〇野村ダムついても有効に活用するためには、改造等の検討も必要である。

〇柔軟なダム操作は、確実な降雨の時空間予測が前提条件であり、難しいとは思うが、課題整理など検討していくべき。

〇野村ダムにおいて、平成 30 年 7 月豪雨に対し、現在の操作ルールで治水容量がいくらあれば最大放流量が 1,000m3/s 以下となるのか算出をお願いしたい。

（その他）
〇野村地区における今回の洪水の浸水過程を CG 化してもらえれば、今後の水防訓練での活用や、住民への周知にも繋がると思われる。

〇今後の検討として、ダム流域の状況などの過去データをとりいれた、ダムの AI プログラムの開発を、国や大学と連携して進めていただきたい。